

西南戦争と牛根

西南戦争は九州各地で繰り広げられましたが、垂水の牛根でも争いがありました。

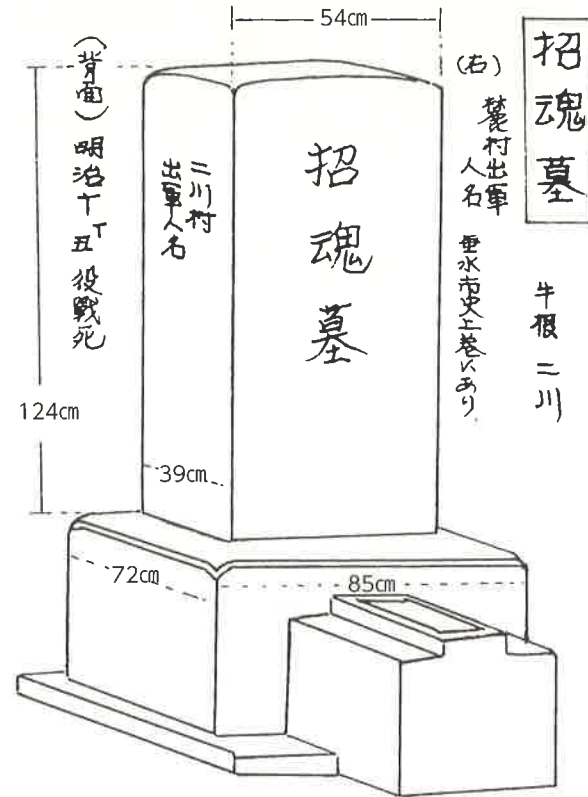
明治10(1877)年6月末、政府軍は高須に上陸しました。そのうち一部は鹿屋、高隈方面、一部は花岡、新城、垂水に進み、先発隊は7月4日、牛根二川に到達しました。5日には百引にも到達しました。

5日、西郷軍は2中隊より成る大斥候隊を牛根へ派兵します。二川で政府軍と衝突したものの、勝負がつかず、恒吉に引き上げます。

8日、西郷軍は中島隊、貴島隊の全力をあげ百引に向かい、政府軍の不意をついて有利に戦を進めます。この結果政府軍はやむなく二川へ退いたと云います。

招魂墓 (牛根二川西宝寺隣、マップ①)

牛根村からも51名が西南戦争に従軍しています。戦死した方を弔うため、招魂墓が建立されました。建立したのは初代牛根邑戸長を務めた酒匂亀五郎です。正確な建立年月日は分かっていません。



牛根二川西宝寺隣招魂墓

戦死者 4名

生存者 47名

従軍者 計 51名

牛根麓 22名

辺田 3名

二川村 22名

隈元一男家

隈元一男氏は牛根の郵便局長を務めた人です。西郷家と深く親交があり、隆盛の弟吉二郎の子隆準の出した母の年忌のときの招待

伝えられている当時の様子

牛根の烏帽子岳 (マップ②) に西郷軍、上ノ原岳に政府軍が陣取り、両方から撃ち合いになったことがありました。このとき多数の死傷者が出たので、二川有誠という人の自宅が野戦病院に使用され、両軍共に治療したと云われています。

烏帽子岳周辺では、現在も当時のものと思われる弾丸が出土すると云われています。

二川に長浜カナという人がいました。この人は、二川が戦地になったとき、西郷軍の中に夫がいるのではないかと密かに探しにいったと云われています。その結果夫と会えたかどうかは不明ですが、危険を顧みず夫を探しにいった愛情の深さに胸を打たれる逸話です。

西郷メモ

このページには、西郷隆盛と牛根地区の関わりについて書いてあります。あなたが新しく知ったことや、西郷隆盛と牛根地区との関わりについて思ったこと、感じたことなどを自由に書いてみましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

状や、その他手紙等が残っていたそうです。西郷菊次郎氏や隆準氏はよく釣りに来て泊まったと云われています。

隈元真浄坊(静家)という人は、寺田屋事件の頃から西郷側近の諜報者(敵の情報を密かにさぐる人)として活躍したと云われている人です。西南戦争の際も山法師に化け、県内で活躍したそうです。諜報者という職業柄、自宅にいるときも用心していたようで、櫃(かぶせ蓋がついた箱)の中に隠れて過ごしており、食事もその中でとっていたとの話が伝わっています。



西南戦争従軍者の様子

(「西南之役従軍記」に掲載されている山口栄之氏によるカット)